

## 消費増税、TPPやめて

### 市議会、請願は賛成少数で不採択に

6月市議会に出された「消費税の増税中止を求める意見書の提出を求める請願」（提出者・鈴鹿民主商工会、年金者組合）、「TPPへの参加に反対する請願」（提出者・県保険医協会、県商連、農民連など9団体）は、6月28日の本会議で「賛成少数」で不採択となりました。賛成は共産党2名（石田、森川）と板倉操議員の3人だけで、各委員会での突っ込んだ議論もなく、残念な結果でした。

私は両請願について賛成する討論に立ちましたが、その要旨は以下のとおりです。

### 強行されたら庶民の暮らしと日本経済に大打撃

消費税引き上げの条件として「名目3%、実質2%」の経済成長率を目標とする景気条項があるが、安倍内閣は参議院選挙を越えてしまえば強行する姿勢です。アベノミクスで金持ちや一部大企業は潤ったが、多くの国民は賃金は上がりず、物価の値上がりで苦しんでいます。さしあたって4月からの増税はストップすべきです。

TPP参加は、「聖域なき関税撤廃」に何も歯止めがないこと、日米事前協議でもアメリカの言いなりに譲歩させられていること、は明らかで、これでは日本の国益、国民生活は守れません。

JA鈴鹿は22日の総代会で「国益・聖域を守れないTPPに断固反対する特別決議」をあげました。また27日には県農協中央会・県生協連・県漁連が呼びかけた「安全安心な暮らしを守るネットワークみえ」の集いに60を超える団体が参加しました。このように県内でも「TPP反対」の大きな運動がすすんでいます。市議会も市民のねがいに答えるべきだと思います。

# 市長の特権的退職金、15%引下げに

共産党市議団が、前市長の時代から求めてきた退職金の引き下げについて、末松市長は6月議会に「市長等の退職手当の特例に関する条例」を提案し、金額で15%引き下げることとしました。本会議での採決では、8人反対がありました。共産党市議団は、賛成しましたが、不十分であるとの意見を述べました。

私たちが「特権的」と批判してきたのは、市長で1期4年ごとに給与月額18万8千円、1900万円という算定の仕方です。今回の引き下げは、算定方法はそのままにして、「今期に限り」15%カットというもので、その理由は「一般職員の退職金を15%引き下げたので、痛みを分かち合う」とのことです。一般職員は、40年近く働いた末の退職金、いっぽう市長は4年ごとに受け取り、カット後も金額は1600万円、市民感覚から見て「高い」と感じるのがふつうでしょう。痛みの程度がちがいます。

市長は引き下げ案を「特別職報酬等審議会」に諮りましたが、審議会は「給与の額」について審議する所で、退職金までは入っていません。鈴木県知事は、自分の判断で退職金をゼロにしました。末松市長も、県知事のようにしようと思えば出来るのです。

なお、市長以外の特別職の退職金支給率は、副市長12.6月 10.71月、教育長9.0月 7.65月、水道局長7.92月 6.73月、監査委員4.0月 3.4月です。  
(議員には退職金制度はありません。)

---

## 住宅リフォーム 助成金アップが好評

6月補正予算に住宅リフォーム助成金の追加が計上されましたが、当初予算1500万円より大きい1800万円、合計3300万円になりました。昨年は助成金額を「上限5万円」とケチったために評判が悪く、何度か募集を延長しても申し込みが伸びず、予算3000万円を1200万円も残す結果になりました。

今年はその反省に立って、他市なみの10万円に増やしたところ、申し込みが殺到し、437件、業者数は163、その半数が10万円超、工事費の総額は5億円となりました。

共産党市議団は昨年の6月以来、何度も助成額の見直しを求めてきましたが、そのまま1年が過ぎました。今回の補正は結構ですが、去年のうちに見直していれば、多くの市民や業者に喜んでいただけたのに、と思います。

# 三重県最南端の紀宝町に行きました 災害ボランティアコーディネーターの現地研修に

30日朝5時に起きて、社会福祉協議会のマイクロバスで紀宝町に出かけました。高速道路を使っても片道4時間かかりました。和歌山県境の熊野川にそって10数キロ上った「浅里地区」、ここは2年前の大水害で浸水、山くずれの被害が大きかったところで、長く「陸の孤島」になりました。町全体で、42日間でのべ5314人のボランティアが入り、この浅里地区も多くのボランティアの力で復旧が進みました。

写真の景色は、地区の集落と田んぼですが、この一面が道路の上の家まで水に浸かったとのこと。いまののどかな風景からは想像もできません。向こうの山は和歌山側です。



## 災害に対する日ごろの訓練や意識づけが大切

紀宝町では、被災した日からただちにボランティアセンターを立ち上げ、県内や県外から来る人たちと、被災地区をつなぐ活動に取りかかりました。



紀宝町の方から経験をお聞きしました。

人口1万2千人の町に、46人のボランティアコーディネーターがいたことが、活動の推進力になりました。

人口20万人の鈴鹿市に換算すると、766人となります。行政や消防、自主防災などの組織に加えて、これほどのボランティア

受け入れ組織があれば、いざというとき役立つということです。勉強になりました。

---

## 参議院選挙、ネットでも応援して下さい

今回の選挙から、インターネットなどでの選挙運動が出来るようになりました。共産党や各候補者のホームページには、毎日のリアルタイムの情報が入ってきますので、どうぞ見てください。そして応援して下さいね。

ずいそう



## 人生下り坂、サイコー！

NHK・BS放送で、俳優・火野正平さんが自転車で日本各地を訪ねて回る番組「にっぽん縦断こころ旅」が、人気である。私も毎朝（7時45分から15分間）楽しみに見ている。2011年から始めてもう3年目になり、これまで2年間で36道府県3600キロを走り、192カ所を訪ねている。3年目の今年の旅も鹿児島から九州を北上、近畿から三重県を経て岐阜県まで到達している。7月は長野から山梨まで行く。そして秋は北海道から東北、関東、東海道を南下して愛知県まで行く予定ということである。

「こころ旅」の特色は、名所旧跡などではなく、視聴者の手紙に書かれた「こころの風景」の場所をめざすということである。「人生を変えた忘れられない場所」「ずっと残したい、ふるさとの風景」「誰かにそっと教えたい、こころの絶景」と手紙に書かれた場所を探して、自転車の旅を続けるのである。その途中の風景、出会った人たちとの交流もまた楽しい。

### 無くなりつつある日本の原風景を訪ねて走る

火野さんが回るのは、地方都市や農山村がほとんどである。かつて栄えた鉱山の町、廃校になった木造の小学校、もう荒地になったみかん山、かろうじてバスが通っている山奥の村、寂れかけた港などなど。風景は変わらずきれいだ、人の姿はまばらで、昔のような賑わいはない。そこに火野さんは座って、改めて手紙を淡々と読み上げる。

テレビを見ていて感じるのは、日本中どこに行っても共通している現象、住む人が減り高齢化がすすみ、寂しくなっている地域の姿である。いや農村漁村だけでなく、地方都市の駅前の商店街もシャッターが閉まり閑散としている。そんな中を火野さんは黙々と自転車をこいで通り過ぎていく。言葉はないが、画面がリアルに現実を映し出している。

火野正平さんは65才、この年で毎日30キロ前後の自転車はしんどいだろう。長い上り坂をハアハア喘ぎながら峠にたどり着くと、そこからは快適な下り坂になる。そこで発するセリフが「人生下り坂、サイコー！」60才になった私の胸にも、ジーンとひびく名言である。火野さんも頑張っている、ヨシ自分ももうひと頑張りするか！